

4年生42名が、伊勢湾台風語り部の方のはなしを聞く授業を受けました。講師は、伊勢湾台風を経験された後藤一平さん(81歳)と加古美恵子さん(75歳)。1クラスずつ、2つの班に分かれてお話を聞きました。

テレビ局や新聞社の取材があり、カメラやマイクを向けられたりしましたが、落ち着いて真剣に話を聞き、積極的に質問をして、学びを深めました。



後藤さんのお話し



▲当時の写真を見ながら説明を受けました。水に浸かった白水小学校や、大きな丸太がたくさん折り重なった写真を見て、後藤さんのお話を具体的なイメージとして受け取っていたようです。

加古さんのお話し



▲10歳だった加古さん、家族6人で生き残ったのは自分ひとりと、静かな口調で話され、みんな真剣に聞き入っていました。同じ年齢のため、話を聞きながら、自分だったらと考えたそうです。

感謝を伝える



▲語り部の会の皆さんに、4年生を代表して感謝を伝えました。取材のカメラがあっても、緊張することなく、しっかりと感謝の言葉を伝えることができました。

生徒の声

- ・大変なことだったと分かって、胸が痛くなりました。
- ・体験した人のは話しは、本を読むより伝わってきました。自分だったらどうしただろうと思うと怖くなりました。
- ・いやなことも大変なことも、ちゃんと話を聞かないといけないと思いました。

先生の声

- ・9月26日は、臨時朝会で全校生徒が黙とうをし、「生きる力はみんなにあるので、何があっても生き抜いて」という話をします。語り部の方の話を聞ける4年生は、下級生からはあこがれの学年になっています。
- ・特活室に資料があるので、伊勢湾台風を知って考える機会を大切にしています。